

II. 各教科ごとの出題方針

| | |
|--|--|
| <p style="text-align: center;">国 語</p> | <p>中学校学習指導要領の目標に則して、国語で正確に理解し適切に表現する力をみることをねらいとした。 出題に当たっては、中学生の実態にあった素材を広く求め、知識及び技能と、思考力、判断力、表現力のバランスをとり、平素の学習活動が生かされるよう配慮した。また、言語活動を想定した問題を通して、論理的に思考し、表現する力を十分みるようにした。 領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 知識及び技能 言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方については、漢字の読み書き、書写、表現の技法、文法の基礎的な事項、情報の整理に関する事項などについての力をみるようにした。 【四】では、我が国の言語文化に関する事項についての力をみるようにした。</p> <p>(2) 「話すこと・聞くこと」の領域 【一】では、体育大会に向けてポスターを作成するための話し合いの場面を設定し、話題や展開をとらえながら話し合う力をみるようにした。 【二】では、ブックトークで話す順番を考える場面を設定し、自分の考えが明確になるような構成を考える力をみるようにした。</p> <p>(3) 「書くこと」の領域 【五】では、「やさしい日本語」を用いてチケットの文面を書き直す場面を設定し、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章の改善点を見いだす力をみるとともに、根拠を明確にし、文章の構成を工夫して自分の考えを書く力をみるようにした。</p> <p>(4) 「読むこと」の領域 【二】では、文芸部に所属しながらも物語を書く才能がないことを悩む主人公が、エッセイを書くことに自分らしさを見いだす様子を描いた文章により、登場人物の心情や発言の意図に着目して文章の内容を理解する力や、文章中にある表現の効果について考える力をみるようにした。 【三】では、教養について異なる視点から論じた二つの文章により、目的や必要に応じて文章の内容を要約したり要旨をとらえたりするとともに、文章の構成や展開、筆者の主張をとらえる力をみるようにした。</p> |
| <p style="text-align: center;">社 会</p> | <p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な学習内容についての知識及び技能と、思考力、判断力、表現力をみることをねらいとした。 出題に当たっては、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の内容についてバランスよく出題し、社会的事象を総合的に関連付けて考察できるように配慮した。 分野別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 地理的分野 「世界と日本の地域構成」に関しては、本初子午線の位置についての問いで知識及び技能をみるようにした。 「世界の様々な地域」に関しては、雨温図の読み取りについての問いで知識及び技能を、世界の各州の比較やヨーロッパ各国の発電の現状についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。 「日本の様々な地域」に関しては、フォッサマグナや現在の日本の産業の特色についての問いで知識及び技能を、各地方の農業産出額に占める品目別割合や各都道府県の製造品別の出荷額についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p> <p>(2) 歴史的分野 「古代から近世の歴史」に関しては、貝塚や白村江の戦いについての問いで知識及び技能を、元寇の時期や琉球王国の中継貿易についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。 「近代・現代の歴史」に関しては、伊藤博文の事績や第四次中東戦争の影響についての問いで知識及び技能を、18世紀と19世紀前半のイギリス・インド・清の貿易の変化や日米間の条約の推移についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p> <p>(3) 公民的分野 「私たちと経済」に関しては、消費者の支援についての問いで知識及び技能を、需要曲線・供給曲線や所得税に適用される累進課税制度の役割についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。 「私たちと政治」に関しては、憲法が改正されるまでの流れや裁判についての問いで知識及び技能を、公共の福祉や衆議院の優越の根拠についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。 「私たちと国際社会の諸課題」に関しては、日本の領域やマイクロクレジットについての問いで知識及び技能を、ヨーロッパ連合(EU)内の人の移動が経済に与える影響についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p> |

| | |
|--------|--|
| 数 学 | <p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるとともに、それらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、各領域をバランスよく出題し、数学の事象について統合的・発展的に考える力をみるように配慮した。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 数と式 数や文字式の四則計算、二次方程式などの基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるようにした。</p> <p>また、二元一次方程式及び連立方程式の問題では、日常の事象を数学化し、数量の関係を捉え、数学的に表現・処理する力をみるようにした。</p> <p>(2) 図形 平面図形や空間図形では、図形の性質などの基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるとともに、証明では、論理的に考察し、表現する力をみるようにした。</p> <p>また、四角錐を2つの立体に分けたときの体積や線分の長さを求める問題では、図形を多面的に考察する数学的な思考力をみるようにした。</p> <p>(3) 関数 一次関数の決定、関数 $y = ax^2$ の変域などの基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるようにした。</p> <p>また、座標平面における点の座標および面積比を求める問題では、数学的に考察し、処理する力をみるようにした。</p> <p>(4) データの活用 確率の問題では、過不足なく数えるための樹形図や表の活用などの基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるようにした。</p> <p>また、箱ひげ図の問題では、複数の箱ひげ図を比較し、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力をみるようにした。</p> |
| 理 科 | <p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な内容についての知識及び技能と、科学的な思考力、判断力、表現力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、学年、分野・領域のバランスをとるとともに、自然の事物・現象についての観察、実験の結果を分析して解釈する力、文章、図、グラフ等により表現する力などを十分みるようにした。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 「エネルギー」を柱とする領域 コイルと磁石を用いた実験を通して、実験結果を解釈し、電流と磁界の規則性や関係性について考察する力をみるようにした。また、発電の仕組みの理解を通して、様々なエネルギーの変換についての関係性を考察する力をみるようにした。</p> <p>(2) 「粒子」を柱とする領域 イオンに関する実験を通して、酸とアルカリの性質を理解する力や、中和の様子をイオンのモデルと関連付けて考察する力をみるようにした。また、化学変化に関する実験を通して、化学変化のようすを化学反応式で表す力や、反応する物質と質量の関係性を考察する力をみるようにした。</p> <p>(3) 「生命」を柱とする領域 身近な生物を観察する実験を通して、生物を分類するための観点や基準を、生物の共通点や相違点に着目し、考察する力をみるようにした。また、生態系に関する資料の分析を通して、生態系における自然界のつり合いの関係性を見いだして考察する力をみるようにした。</p> <p>(4) 「地球」を柱とする領域 気象に関する資料の分析を通して、気象に関する基礎的・基本的な知識や、気象要素と天気の変化を関連付けて考察する力をみるようにした。また、地層に関する資料の分析を通して、地層に関する基礎的・基本的な知識や、地層の重なり方について規則性を見いだして考察する力をみるようにした。</p> |

| | |
|--------|---|
| 英 語 | <p>中学校学習指導要領の目標に則して、コミュニケーションを図るために必要な知識及び技能と、思考力、判断力、表現力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」の各領域にわたり、調和のとれた出題となるように配慮するとともに、語彙、文構造、語法等の知識をもとに、思考力、判断力をはたらかせて、まとまりのある文章を正確に理解したり、英語で適切に表現したりする力をみるようにした。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 「聞くこと」の領域 【1】では、ポスターについての対話や絵についてのやり取り、ALTの先生のインタビュー、スポーツについての対話を聞き、必要な情報を聞き取る力をみるようにした。</p> <p>(2) 「読むこと」の領域 【2】Aでは、海外の中学生とのオンライン上のやり取りの流れに即して理解し、内容を正確に読み取る力をみるようにした。 【2】Bでは、ポスターを見ながら、必要な情報を正確に読み取る力をみるようにした。 【4】(1)～(3)では、社会的な話題について、4人の中学生の発表内容や発表原稿の要点を、英文からの情報をもとに読み取る力をみるようにした。 【5】では、中学生のエッセイの内容の流れに即して理解し、内容や要点を読み取る力をみるようにした。</p> <p>(3) 「話すこと」、「書くこと」の領域 【3】では、相手とのやり取りの場面を設定し、正確に英語で伝える力、さらに、自分の意見を表現する場面を設定し、自分にとって有益な経験とその理由について、英語で伝える力をみるようにした。 【4】(4)では、読み取った内容に基づいて、動物が生活する環境をよりよくするための方法について、英語で伝える力をみるようにした。</p> |
|--------|---|

Ⅲ. 各教科ごとの入試問題分析

国 語

1. 問題の項目と正答率

| 大問 | 小問 | 項目 | 正答率 (%) | 評価の観点 | | 特記事項 (誤答例等) | | |
|-----|-------|--------------------|--------------|-------|------|--|--|---|
| | | | | A | B | | | |
| 【一】 | 問一 | (1) | 34.0 | ○ | | (1)「収支」は「終始」「終止」などの誤答が多く、語句の意味を理解できていないと思われるものが多かった。(2)の「貯蔵」については、大まかにイメージできていても部首や点画が異なるものが多かった。 (1)の正答率からは、品詞や単語の活用に対する理解が十分ではないことがうかがえる。 | | |
| | | (2) | 58.3 | ○ | | | | |
| | | (3) | 61.6 | ○ | | | | |
| | | (4) | 64.6 | ○ | | | | |
| | | (5) | 54.3 | ○ | | | | |
| | 問二 | (1) | 品詞の理解 | 30.8 | ○ | | | |
| (2) | | 話し合いの進め方の検討 | 44.3 | | ○ | | | |
| (3) | | 話し合いの考えの形成 | 45.6 | | ○ | | | |
| 【二】 | 問一 | 登場人物「希和子」の心情 | 48.7 | | ○ | 問二は発言の意図を本文中の語句を用いてまとめる問題であったが、問題の趣旨を理解できていないと思われる解答が多かった。 問三(2)は概ね方向性は合っているが必要な要素を考えて、適切にまとめることが難しかったようである。単純に本文から抜き出すだけでなく、書くべき内容を適切な文字数にまとめることが必要である。 問四は表現の効果に関して適切でないものを選ぶ問題であった。詳細に文章を読むことや効果を確かめながら読むことが難しかったようである。 | | |
| | 問二 | 登場人物「絵菜」「梨津」の発言の意図 | 2点 | 12.5 | | | ○ | |
| | | | 1点 | 3.2 | | | | |
| | 問三 | (1) | 登場人物「希和子」の心情 | 2点 | 55.0 | | | ○ |
| | | | | 1点 | 5.1 | | | |
| | | (2) | 登場人物「希和子」の心情 | 4点 | 1.1 | | | ○ |
| | | | | 3点 | 6.3 | | | |
| | | | | 2点 | 20.1 | | | |
| | | | | 1点 | 9.5 | | | |
| | (3) | 話すことの構成の検討 | 43.6 | | ○ | | | |
| 問四 | 表現の効果 | 31.5 | | ○ | | | | |
| 【三】 | 問一 | 内容の解釈 | 2点 | 45.4 | | ○ | 問一では抜き出しの問題で、「価値観」を「価値感」と誤って書く解答が目立った。 問三(3)では、本文の表現をそのまま抜き出したことで、空欄の前後とのつながりに不備のあるものや助詞の使い方が適切でないものが多く見られた。 問三(4)は文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりすることのできる力が問われている。文章の内容に共感したり疑問を持ったり自分の考えと対比したりするなどの言語活動を積極的に行うことが求められる。 | |
| | | | 1点 | 10.6 | | | | |
| | 問二 | 文章の構成や展開 | 66.8 | | ○ | | | |
| | 問三 | (1) | 内容の解釈 | 2点 | 61.6 | | | ○ |
| | | | | 1点 | 3.9 | | | |
| | | (2) | 文章の構成や展開 | 41.9 | | | | ○ |
| | | | | 4点 | 12.7 | | | |
| | (3) | 内容の解釈 | 3点 | 7.0 | | ○ | | |
| | | | 2点 | 16.4 | | | | |
| | (4) | 考えの形成 | 58.9 | | ○ | | | |
| 【四】 | 問一 | 行書の理解 | 62.0 | ○ | | 問二は漢文の返り点の付け方を問う問題であったが、基本的なことが理解できていないと思われる解答が多かった。音読を通して文語の決まりや訓読の仕方を学習することが大切である。 問三は適切な言葉を自分で考えて答えるということができていないものが多かった。 問四からは、本文の内容を理解できていないことに加え、故事成語の知識に乏しいことがうかがえる。 | | |
| | 問二 | 訓読のきまり | 50.2 | ○ | | | | |
| | 問三 | (1) | 内容の把握 | 2点 | 54.6 | | | ○ |
| | | | | 1点 | 3.2 | | | |
| | | (2) | 内容の把握 | 2点 | 15.9 | | | ○ |
| | | | | 1点 | 3.0 | | | |
| | (3) | 内容の把握 | 2点 | 21.9 | | | ○ | |
| | | | 1点 | 1.9 | | | | |
| (4) | 内容の解釈 | 29.9 | | ○ | | | | |
| 【五】 | 問一 | 情報の読み取り | 71.7 | ○ | | 問一、問二は資料の内容や表現に関する問だが、まずまずできていた。多様な文章を読む機会が確保されていることがうかがえる。 問三は表現の工夫とその効果などについて、自分の文章の改善点を見だし、定められた字数で述べる問題であった。問題文を丁寧に読んでいないために、問われていることに答えていない誤答が多く見受けられた。また、引用の「」を適切に用いることができていないものも見られた。なお、大問【五】に限らず、走り書きのような乱雑な字が目立った。 | | |
| | 問二 | 表現の工夫と効果 | 64.4 | ○ | | | | |
| | 問三 | 論理の展開の工夫 | 6点 | 10.3 | | | ○ | |
| | | | 5点 | 5.9 | | | | |
| | | | 4点 | 28.5 | | | | |
| | | | 3点 | 13.6 | | | | |
| | | | 2点 | 11.7 | | | | |
| 1点 | 4.2 | | | | | | | |
| 無記入 | 12.3 | | | | | | | |

【評価の観点】 A: 知識及び技能 B: 思考力、判断力、表現力

2. 知識及び技能について

解答結果とその分析

- ・言葉の特徴や使い方に関する事項について、漢字の問題では、「収支」（書き）、「罷免」（読み）の正答率が低く、それぞれ34.0%、54.3%であった。
- ・漢字の学習では漢字一字一字の音訓を理解し、文脈に即して意味や用法を理解しながら、語彙を増やすことも併せて行うことが大切である。授業や学校生活を通して、社会生活の中で使いこなせる語句を増やし、確実に習得していくことが重要である。
- ・乱雑な表記にならないためにも、書写の学習と関連付けることで**字形を整え、正確に書くことができるように学習**することが求められる。
- ・品詞の理解については正答率が低かった。
- ・書写や表現の技法、伝統的な言語文化についてなど幅広くその力を問われている。その中でも特に語彙の力については問題全体で要求されている。語句を話や文章の中で使うことを通して、社会生活の中で使いこなせる語句を増やし、確実に習得していくことが重要である。

3. 思考力、判断力、表現力について

(1) 設問の意図（ねらい）

- ・【三】問三（4）は、文章を読んで理解したことや考えたことにより、自分の考えを広げたり深めたりしたものとして正しいものを問う出題、【五】問三は、「やさしい日本語」を踏まえて自分の文章を改善する設定の中で、根拠を明確にし、構成を工夫しながら自分の考えを述べる設問など、**中学校での学習と社会生活とを結び付けた視点から、国語により論理的に思考し、表現する力をみるようにした。**

(2) 解答結果とその分析

- ・【三】問三（4）の正答率は58.9%であり、平素の授業で身に付けた力が活用できたと考えられる。文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付ける際には、関連する知識や経験を想起して列挙するのみでなく、それらと結び付けることによって、理解したことや考えたことを一層具体的で明確なものにしていくことが重要である。
- ・【五】問三の結果については、平均得点率45.6%（R5：47.0%）であり、無記入率は12.3%（R4：10.9%）であった。この問題では「やさしい日本語」のポイントを踏まえて、チケットの文面をどのように改善すべきか自分の考えを書く必要がある。**文章を書く際は目的や意図、読み手の立場に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする**必要がある。また書き手が目的と意図に応じてどのような表現の工夫をし、それはどのような効果があったかなどについて検討することが考えられる。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 「知識及び技能」の各指導事項においては、**語彙語句の習得と活用の機会を授業内外で意図的に仕組み、生徒自身が言葉を豊かにしていくことの良さや必要性を感じられるような工夫**が必要である。加えて、多様な文章に触れる機会を増やすために**読書指導の充実**も求められる。
- ② 「思考力、判断力、表現力」の各指導事項については、**付けたい力を明確にした単元計画による言語活動の質の向上**が求められる。生徒に学習の目的やゴールイメージを明確に持たせる工夫をするとともに、単元が進むごとに振り返りが深化するような活動展開を工夫することが必要である。
- ③ 情報の収集や整理、交流の手立てとしてもICTの利活用が幅広く進められているが、要約してメモを取る力や相手意識を持って文字を書くこと等の指導も引き続き日常的に取り組んでいく必要がある。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① **中学校学習指導要領に示される指導事項について理解を深める**ことはもちろん、義務教育段階での学習内容や習得状況への理解を深めることで**生徒の実態を正しく把握し、どのような資質・能力をつけるのかを明確にした授業の目標設定を行う**ことが大切である。また、適切に評価を行うために、振り返りの機会を確保することが大切である。
- ② 主体的・対話的で深い学びのある授業を実現するために、**学習者が探的に取り組むことのできる言語活動を設定する工夫**が求められる。
- ③ 学習指導要領を踏まえて、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域における授業時数を適切に配当して指導することが必要である。

社 会

1. 問題の項目と正答率

| 大問 | 小問 | 項目 | 正答率 (%) | 評価の観点 | | 特記事項 (誤答例等) |
|-----------|-------------|---------------------|--------------------|-------|---|---|
| | | | | A | B | |
| 【1】 | (1) | ① 本初子午線 | 67.8 | ○ | | (1)①1つの事項に対して、様々な角度から学習することにより、理解を深めることができ、多角的な思考も身に付けることができる。 (1)②各気候における雨温図の特徴を産業や生活様式等と結び付けながら理解することが大切である。 (1)③各州の特徴の理解を基に、的確に比較できている様子が見受けられた。 (1)④全ての設問を通じて、3番目に低い正答率であった。「裁」という誤字が散見された。二毛作との混同も見られた。類似の語句は内容を比較する学習が有効である。 (2)③各製造品出荷額の多い都道府県名を覚えるだけでなく、なぜ多いのかを考察することにより定着が図られる。 (2)④全ての設問を通じて、2番目に高い正答率であった。 |
| | | ② 雨温図 | 49.0 | ○ | | |
| | | ③ 世界の各州の特色 | 72.7 | | ○ | |
| | | ④ 二期作 | 2点 12.6 1点 0.7 | ○ | | |
| | (2) | ① フォッサマグナ | 66.7 | ○ | | |
| | | ② 日本の地方別農業産出額の品目別割合 | 52.2 | | ○ | |
| | | ③ 日本の都道府県別製造品の出荷額 | 23.0 | | ○ | |
| | | ④ 現在の日本の産業の特色 | 81.7 | ○ | | |
| 【2】 | (1) | 貝塚 | 76.9 | ○ | | (1)全ての設問を通じて、3番目に高い正答率であった。「具」という誤字が散見された。 (3)資料から必要な情報を読み取る学習が必要であり、そのためには日頃から資料に触れておくことが大前提である。出来事の名称や関連した人物名を覚えるだけでなく、なぜそのような出来事が起きたのかという原因やその結果どうなったのかという影響等を常に思考することにより、出来事がつながり、より深く確実に理解することができる。 (4)「易」の誤字が散見された。「貿易の中心」「琉球を介して」等の中継貿易に言及していない解答が見られた。模式図の特徴を読み取り、文章化する学習は思考力を高めるのに有効である。 (5)「解」の誤字が見られた。著者名の解答も見られ、何が問われているのかを正確に把握する必要がある。 (8)歴史を学習する際には、常にどの時期(時代)の出来事なのかを意識することが有効である。 |
| | (2) | ① 白村江の戦い | 2点 53.6 1点 1.5 | ○ | | |
| | | ② 白村江の戦い以前の倭の政策 | 59.8 | | ○ | |
| | (3) | 元寇 | 55.7 | | ○ | |
| | (4) | 琉球王国の中継貿易 | 2点 43.8 1点 8.4 | | ○ | |
| | (5) | 解体新書 | 59.9 | ○ | | |
| | (6) | 江戸幕府の対外政策 | 33.0 | ○ | | |
| | (7) | 帰国後の伊藤博文の事績 | 45.6 | ○ | | |
| (8) | 国際連盟設立以降の日本 | 34.2 | | ○ | | |
| 【3】 | (1) | ① 公共の福祉 | 2点 38.7 1点 4.2 | | ○ | (1)①「祉」が衣へんになっている誤字が見られた。「基本的人権」「人権の尊重」等の誤答が見られた。様々な資料と接して、内容まで含めた語句の知識を身に付けたい。 (1)②「内閣の総辞職」との混同が見られたが、文章記述でありながら多くの生徒が正答できていた。 (1)④B「過半数」「3分の2以上」等の数的な部分だけでなく、何を対象としているのかを理解することが大切である。 (2)全ての設問を通じて、最も高い正答率であった。消費者の支援に関する高い意識が見受けられた。 (3)グラフの読み取り方を身に付けるだけでなく、実社会で起こりうる具体的な例を考察することで、理解が深まるとともに、応用力も身に付けることができる。 (4)①文章を読んだだけでは考察することが難しい場合、図に表して考察する方法が有効である。 (4)②全ての設問を通じて、最も低い正答率であった。「制」という誤字が散見された。 (5)ウとエのような知識については、文章だけで理解するのではなく、模式図を作成して理解することが有効である。 |
| | | ② 衆議院の優越 | 2点 58.9 1点 16.8 | | ○ | |
| | | ③ 裁判 | 57.9 | ○ | | |
| | | ④ | A 憲法改正 | 52.7 | ○ | |
| | B 憲法改正 | | 25.0 | ○ | | |
| | (2) | 消費者の支援 | 83.4 | ○ | | |
| | (3) | 需要曲線・供給曲線 | 67.7 | | ○ | |
| | (4) | ① 所得税の累進課税制度 | 2点 27.0 1点 2.4 | | ○ | |
| ② 消費税の逆進性 | | 12.1 | ○ | | | |
| (5) | 日本の領域 | 60.7 | ○ | | | |
| 【4】 | (1) | マイクロクレジット | 59.1 | ○ | | (4)C全ての設問を通じて、2番目に低い正答率であった。語句の名称だけでなく、「綿」「絹」「毛」や「綿糸」「綿織物」等の違いまで、地理的分野と歴史的分野を連携して学習することが望ましい。また模式図から読み取れることを文章化する学習やその逆の手順の学習は、思考力や表現力を高め、知識を整理するのに有効である。 (5)なぜこの国はこの発電割合なのだろうか等の問題意識を常に持ち、多面的・多角的に考察することが大切である。 (6)類似の事項については、比較することで理解をより深めることができる。 |
| | (2) | 石油危機による高度経済成長の終了 | 47.9 | ○ | | |
| | (3) | 国際連合 | 75.8 | ○ | | |
| | (4) | D 綿織物 | 12.3 | | ○ | |
| | | E アヘン | 73.3 | ○ | | |
| | (5) | ヨーロッパ各国の発電の現状 | 47.4 | | ○ | |
| (6) | 日米条約の推移 | 63.5 | | ○ | | |
| 【5】 | (1) | 大航海時代の宗教上の目的 | 2点 59.4 1点 2.1 | | ○ | (1)「イスラム教」の誤答が散見された。十字軍との混同も見られた。まず世界の歴史の大きな流れを理解してから、個々の事項を確認していく学習も効果的である。 (2)②近現代の時代感覚は身に付けておくことが望ましい。 (3)各事項をつながり理解するためには、常に背景には何があるのかを意識して学習することが有効である。 (4)①資料文から必要な情報を読み取る力を身に付けることが大事である。地図に関しては世界地図の一部分を見てどの地域かが判別できる技能も身に付けることが望ましい。 (4)②様々な解答が考えられる場合は、条件を適切に把握して、論理的に考察することが重要である。 |
| | (2) | ① ブラジル移民と農産物 | 64.9 | ○ | | |
| | | ② 日露戦争頃の日本 | 48.9 | ○ | | |
| | (3) | オーストラリアの輸出手国の変化 | 63.0 | ○ | | |
| | (4) | ① ASEAN | 39.2 | | ○ | |
| | | ② EU内の東ヨーロッパ諸国の課題 | 2点 26.0 1点 2.2 | | ○ | |

【評価の観点】 A: 知識及び技能 B: 思考力、判断力、表現力

2. 知識及び技能について

解答結果とその分析

- ・基礎的・基本的な知識を問う問題は、一問一答形式など語句記述問題の平均正答率が67.8%と、全体平均(53.8%)よりもかなり高い結果となり、学習の成果が見られた。
【2】(2)①のような、類似の語句(〇〇の戦い)がある問いの正答率は54.4%と低かった。
社会的事象について理解するためには、基礎的・基本的な知識を確実に身に付けることが必要であるが、語句を覚えるだけでなく、**語句の意味について説明する学習**や個別の事実だけでなく**類似や差異を意識した学習**を行うことが効果的である。
- ・誤字による減点が見られた。教科書記載の語句については、正しく漢字で書けるようにしておきたい。
- ・資料等の活用による技能を重視した問題も、平均正答率が56.9%と全体平均よりも高い結果となった。
【1】(1)①のように、1つの事項に対して様々な角度から考察したり、【5】(3)のように、特徴的な点に着目してその背景を考察したりする場面を意識して出題した。日頃の授業から、様々な資料に触れ、資料から読み取った内容について、「なぜそのような内容となるのか」という**因果関係を考察し、思考を働かせながらまとめる学習**を行うことが効果的である。

3. 思考力、判断力、表現力について

(1) 設問の意図(ねらい)

- ・中学校社会科では、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことを目標としている。
- ・【2】(4)のように、琉球王国が「万国のかけ橋」と自ら名乗っている理由を資料中の輸出入品から貿易の特徴を読み取って解釈し説明する、思考・判断・表現する力を問う文章記述問題を6問出題している。
- ・【4】(5)のように、各国の発電量の発電方法別割合から特徴を読み取り、自然環境や政策等の既習事項と関連付けて考察する、資料を活用して思考・判断する力を問う記号選択問題を6問出題している。

(2) 解答結果とその分析

- ・文章記述問題の平均正答率は37.3%と全体平均よりもかなり低い結果となった。
要因としては、資料中の着目すべき点を適切に読み取れていないことや資料と関連した既習知識を引き出せていないこと、条件に沿った論理的な思考ができていないこと、あいまいまたは蛇足的な文章表現をしていることがあげられる。適切に表現するためには、**題意に沿ってどのような要素が必要か判断する力と既習知識と結び付け、筋道を立てて説明する論理的思考力**が必要である。
- ・記号選択問題の平均正答率は48.4%であり、同じく全体平均よりも低い結果となり、課題が見られた。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 用語・語句等を含めた個別の事実などに関する知識や**社会的事象の特色や意味、理論等を含めた汎用的に使用できる概念等に関わる「生きて働く」知識**を獲得するように学習を設計することが求められる。
- ② 「調べまとめる技能」については、情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習や**作業的で具体的な体験を伴う学習**を計画的・意図的に単元に位置付けることが求められる。
- ③ 課題を追究したり解決したりする活動を重視し、資料等を活用して考察したことや選択・判断したことを**論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりする授業**が求められる。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① **中学校教科書の内容について理解し、その内容を生徒がどれだけ身に付けているのかという実態を把握した上で、指導計画を作成することが必要である。また、中学校と高等学校の授業方法の連続性を図る必要がある。**
- ② 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けるとともに、発問について考えたり、資料を読み取ったり、発表したりする等、**思考力、判断力、表現力を育成する場面**を設けることが必要である。
- ③ 中学校での学習を踏まえ、各科目の特質と相互の関連性を考慮しながら、世界や日本の地理的事象や歴史的事象、現代社会の諸事象について考察し、その内容を説明したり議論したりすることを通して、**社会的な見方・考え方を働かせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を一層深める**ことが大切である。

数 学

1. 問題の項目と正答率

| 大問 | 小問 | 項目 | 正答率 (%) | 評価の観点 | | 特記事項 ([]内は誤答例) | | |
|-----|------------|-----------------------------|--|------------|---|---|---|---|
| | | | | A | B | | | |
| 【1】 | (1) | ① 正の数と負の数 | 97.3 | ○ | | ①～⑤の基礎的・基本的な計算の技能は概ね身に付いている。 計算の技能を学ぶ際には、概念や原理・法則を適切に使うことで、数学的な処理の仕方が導き出されることを理解する学習活動が効果的である。 | | |
| | | ② 正の数と負の数 | 87.4 | ○ | | | | |
| | | ③ 文字式の計算 | 80.5 | ○ | | | | |
| | | ④ 文字式の計算 | 75.9 | ○ | | | | |
| | | ⑤ 平方根の計算 | 74.8 | ○ | | | | |
| | (2) | 二次方程式 | 72.3 | ○ | | 解の公式を用いた計算の技能は概ね身に付いている。 二次方程式を学ぶ際に、因数分解を用いるのか、解の公式を用いるのかを判断する学習活動が必要である。 | | |
| | (3) | 関数 $y=ax^2$ の変域 | 51.9 | ○ | | 関数 $y=ax^2$ の変域は高校の学習に直結する内容であるため、グラフから変域を考える学習活動が必要である。 | | |
| (4) | 多角形の内角と外角 | 75.2 | ○ | | 多角形の角度を求めるために、補助線を引いたり、さまざまな方針を比較検討したりする学習活動が必要である。 | | | |
| (5) | 直線と平面の位置関係 | 26.1 | | ○ | 空間図形における辺と辺、辺と面、面と面の位置関係の定義を理解した上で、展開図から空間図形を実際に組み立てる学習活動が必要である。 [イ、エを選択している。] | | | |
| (6) | 平面図形の作図 | 2点 23.4 1点 25.9 | | ○ | 基本的な作図の方法が、どのような場面で活用されるかについて考察する場面を設定することが必要である。 [22.5° の角度を作図している。] | | | |
| 【2】 | (1) | 関数 $y=ax^2$ の定数決定 | 65.6 | ○ | | (3)では、線分の長さの和がもっとも小さくなる点の座標を求める際に、二次関数の対称性に着目したり、線分の長さの和が変化するように、ICT機器等を用いることで視覚的に捉え、考察したりすることが重要である。 | | |
| | (2) | 一次関数の決定 | 55.0 | ○ | | | | |
| | (3) | ① 座標の決定 ② 座標平面における面積比 | 14.6 9.4 | | ○ | | | |
| 【3】 | (1) | ① 確率 | 39.5 | ○ | | (1)では、すべての場合の数について、表や樹形図をかくことで、複数の確率の大小を考察する学習活動が必要である。 (2)では、箱ひげ図を用いて、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察したり判断したことを説明したりすることが必要である。 [(1)① $\frac{11}{50}$:1回目に取り出した玉を袋に戻さない場合を考えている。(2)②代表値もしくは数値を正しく示していない。] | | |
| | | ② 確率の比較 | 32.2 | | ○ | | | |
| | (2) | ① 範囲 ② 箱ひげ図の読み取り | 65.4 2点 55.2 1点 22.0 | | ○ | | | |
| 【4】 | (1) | ① ア 条件を満たす値 イ 二元一次方程式の立式 | 80.8 58.7 | ○ | | 二元一次方程式の解の意味について考察するなど、各単元の導入やまとめにおいて、日常生活と関連付けた題材を取り扱うような学習活動が求められる。例えば、体験したことを振り返り、課題を発見し解決するために、生徒自らが条件を設定し、課題解決する場面を設けることが重要である。 | | |
| | | ② 二元一次方程式の解 | 33.8 | | ○ | | | |
| | (2) | 連立方程式の利用 | 25.9 | | ○ | | | |
| 【5】 | (1) | 正四角錐の体積 | 63.2 | ○ | | (2)①では、2つの立体が相似であることに気づき、相似比と体積比の関係を活用する力が求められる。②では、立体について多面的に考察する学習活動を意図的に設定することが求められる。 | | |
| | (2) | ① 相似な立体の体積 | 31.0 | ○ | | | | |
| | | ② 正四角錐の高さ | 8.0 | | ○ | | | |
| 【6】 | (1) | 三角形の相似の証明 | 3点 28.9 2点 5.4 1点 17.9 無記入 28.9 | | ○ | (1)の三角形の相似の証明においては、見通しを立て、数学的な表現を用いて、根拠を明確にした上で証明することが大切である。 (3)では、さまざまな方針が考えられるため、生徒の考えを引き出しながら、それぞれの方針のよさについて協議するような学習活動も必要である。 [(1)表現や記号の使い方が間違っている、また根拠が不明な証明] | | |
| | | | (2) | 相似な図形の線分の比 | 17.0 | | ○ | |
| | | | (3) | 四角形の面積 | 2.0 | | | ○ |

【評価の観点】 A: 知識及び技能 B: 思考力、判断力、表現力

2. 知識及び技能について

解答結果とその分析

- ・「数と式」については、数や文字式の四則計算の基礎的な知識及び技能は概ね身に付いている。平方根を含む計算や方程式の解法の手順において、確実な定着を図ることが必要である。
- ・「図形」については、線分の長さや平面図形の面積、立体の体積を求めるために必要な要素を調べていく学習活動が求められる。
- ・「関数」については、基礎的な知識及び技能は概ね身に付いている。二次関数の変域については、グラフと関連付ける学習活動が求められる。
- ・「データの活用」については、与えられた情報を目的に応じて整理し、データの意味や特徴の理解、データの見方を授業で扱い、生徒に考察させる学習活動が求められる。

3. 思考力、判断力、表現力について

(1) 設問の意図(ねらい)

日常生活や社会の事象を表やグラフを活用して判断する問題や、図形についての基礎的な知識及び技能を活用し、統合的・発展的に考察することを通して、数学的な思考力、判断力、表現力をみるようにした。

- ・【3】(2)「根拠をもとに優勝するクラスを予想する問題」では、複数の箱ひげ図を比較し、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力をみるようにした。
- ・【4】「グループを2人組と3人組に分ける問題」では、日常の事象を数学化し、数量の関係を捉えるために、二元一次方程式を成り立たせる解とその意味について考察する力をみるようにした。
- ・【5】「四角錐を2つの立体に分けたときの体積や線分の長さを求める問題」では、相似な立体の相似比と面積比および体積比の関係に着目し、問題を解決する力をみるようにした。

(2) 解答結果とその分析

- ・【3】(2)②の正答率は55.2%であった。それぞれのクラスが優勝すると予想できる根拠について、それぞれ別の代表値に着目することで、箱ひげ図を用いて視覚的に考察できるかがポイントであった。
- ・【4】(1)②、(2)の正答率はそれぞれ33.8%、25.9%であった。問題文が長いこと、必要な条件を正確に読み取りながら数学化することができるかがポイントであった。日常生活や社会の事象において、体験したことを振り返り、生徒自らが条件を設定したり、変更したりして、課題の解決を図ろうとする学習活動が求められる。また各単元の導入やまとめにおいて、今回の二元一次方程式を成り立たせる解とその意味について考察するといった、その単元を学ぶことの意義について触れる機会が必要である。
- ・【5】(2)②の正答率は8.0%であった。(1)や(2)①の段階で、計算を間違えている解答が見られ、問題文や自分が書いた解答を見直す習慣が大切である。また(2)②においては、どの高さを文字で置くと、体積をその文字を用いて表すことができ、方程式を立式することができるかということを考えられるかがポイントである。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 「数と式」については、全領域と深く関わり日常生活や社会においても様々な場面で使われている。そのため、**計算方法を考察したり、具体的な場面で活用したりすること**を通して、基礎・基本の定着が求められる。定着が不十分な場合には、**その都度取り上げて指導を繰り返すこと**が必要である。文字式の活用においては、見通しを立て、何の数量をどのように表すのか等、丁寧な指導が大切である。
- ② 「図形」については、**立体模型やICT機器の活用など、観察・操作・実験等の活動**を通して、図形を考察することが必要である。その際、定義・定理・性質の理解を深めさせるとともに、なぜ成り立つのかといった、**論理的に考察し数学的に表現する力**を身に付けさせていくことが大切である。
- ③ 「関数」については、基礎的・基本的な内容の習得とともに、**表、式、グラフなどを相互に関連付けて考察し、表現する力**を育成することが大切である。また、身の回りの具体的な事象の中にある二つの数量の依存関係に着目し、その考察の過程や結果を数学的な表現を用いて説明する場面を意図的に設けることが大切である。
- ④ 「データの活用」については、目的に応じて資料を収集して処理し、その傾向を読み取って判断することが大切である。その際、データに基づいて批判的に考察できるようにすることが大切である。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 中央教育審議会答申が示した「算数・数学の学習過程のイメージ」は、幼小中高を通して数学的に考える資質・能力を育成することを目指している。単元を見通し、内容の系統性を重視しつつ、**中学校での指導内容を十分理解し**、定着状況を把握、確認した上で指導する必要がある。
- ② 授業においては、単元を通して、どのような力を身に付けさせたいかを明確にし、知識及び技能を習得しながら、**思考力、判断力、表現力を育成**することが大切である。生徒の発言を拾い上げながら、数学的な見方・考え方のよさを見出す力や得られた結果を基に批判的に検討し、**体系的に組み立てていく力**、既習の知識と結び付け、概念を広げたり深めたりする力を育成することが大切である。
- ③ 単元においては、**日常生活や社会の事象**と関連付け、それらを数理的に捉えることによって数学の問題として見出す態度や、**事象を数学化する力**を養い、**主体性をもって様々な問題解決に取り組む態度**を育成することが大切である。

理 科

1. 問題の項目と正答率

| 大問 | 小問 | 項目 | 正答率 (%) | 評価の観点 | | 特記事項 (誤答例等) |
|--------------|---------------------|----------------|---------|-------|---|---|
| | | | | A | B | |
| 【1】 | (1) | ① 示準化石 | 74.5 | ○ | | (1)①「示相化石」という誤答が多く見られた。単語として暗記するのではなく、理解を伴った知識の定着が必要である。 (3)①化学反応式の係数がない誤答や、元素記号の大文字小文字を区別して記入できていない誤答が見られた。 (3)②プロットがない誤答が見られた。実験等の授業においてグラフの正しい記入方法を指導し、生徒が記入したグラフを評価することが求められる。 (3)③小数第二位までを解答する際に、小数第三位まで求めて四捨五入せずに切り捨てをしたり、小数第二位までの計算で解答したりする誤答が見られた。数値の桁数表示に指示がある場合は、指定された桁数より1桁多く計算した後に、四捨五入をして算出することが求められているため、具体的に数値を扱いながら指導することが求められる。 (4)③植物の光合成に関する基本的な内容であったが、問い方が変わることによって正答率が低くなっている。一方向からの理解だけでなく、様々な視点からの理解も必要である。 |
| | | ② 凝灰岩の特徴 | 81.0 | | ○ | |
| | | ③ 柱状図の考察 | 82.4 | | ○ | |
| | (2) | ① 発電時のエネルギー変換 | 88.4 | ○ | | |
| | | ② 火力発電の長所 | 54.5 | | ○ | |
| | | ③ バイオマス発電 | 54.8 | ○ | | |
| | (3) | ① 化学反応式 (銅の酸化) | 48.2 | ○ | | |
| | | ② 酸化銅の質量変化のグラフ | 2点 | 55.7 | ○ | |
| | | | 1点 | 1.5 | | |
| | | | 無記入 | 7.5 | | |
| | ③ 酸化銅の質量 | 43.8 | | ○ | | |
| | (4) | ① 食物連鎖 | 72.7 | ○ | | |
| | | ② 生物の特定 | 70.6 | | ○ | |
| ③ 炭素の循環 | | 44.5 | | ○ | | |
| 【2】 | (1) 電解質 | 82.2 | ○ | | (2) (3) (4)イオンの性質やでき方については、単に暗記するのではなく、電子や原子、イオンのモデル図を活用しながら正しく理解する学習活動が求められる。 (5)化学反応式はモデル図や模型等を活用し、視覚的に理解できるように工夫が求められる。その上で化学反応式の記述を反復するなどして、定着できるような学習活動が求められる。 (6) (7)モデル図やアニメーション動画等を活用し、段階的な変化を丁寧に理解する学習活動が求められる。 | |
| | (2) ナトリウムイオン生成の方法 | 63.9 | | ○ | | |
| | (3) 水素イオンの性質 | 62.0 | | ○ | | |
| | (4) 水酸化物イオンの性質 | 64.5 | | ○ | | |
| | (5) 化学反応式 (中和) | 38.6 | ○ | | | |
| | (6) 中和時の水溶液の状態 | 79.4 | | ○ | | |
| | (7) 水溶液中のイオン量 | 46.6 | | ○ | | |
| 【3】 | (1) ルーペの使い方 | 60.9 | ○ | | (1)実際に授業でルーペを使用することで、体験的に使い方を身につけさせる等の指導が求められる。 (4)「へび」という誤答が多く見られた。思い込みによる誤解を防ぐために、間違いやすい内容については誤答例を取り上げる等の工夫をし、正しい理解を伴った知識定着が求められる。 (7)観察結果から生徒自身で判断する力が問われている。生徒から表現された内容を評価し、生徒自身がさらに思考し判断できるような学習場面の設定が求められる。 | |
| | (2) 植物の種類と環境の関係 | 74.4 | | ○ | | |
| | (3) 動物の分類 | 85.4 | | ○ | | |
| | (4) 無脊椎動物の分類 | 60.1 | ○ | | | |
| | (5) 呼吸の方法 | 93.5 | ○ | | | |
| | (6) 脊椎動物の分類 | 96.4 | | ○ | | |
| | (7) 生物の分類の観点 | 88.2 | | ○ | | |
| 【4】 | (1) 電熱線の抵抗 | 58.0 | ○ | | (1) (2) (3)電流の単位をmA (ミリアンペア) で各計算式に使用した誤答が多く見られた。電流、電圧、抵抗に関する各定義を授業で理解した上で、反復を伴った学習活動が求められる。 (5)実際のコイルの動きを実物や実験動画等を用いて、視覚的にイメージさせた上で、その動きの原理や理論を丁寧に理解させる指導が求められる。 (6)整流子の役割についての理解ができていない解答が多く見られた。単なる暗記事項として記憶させるのではなく、コイルの連続的な動きを、各段階に分けて原理とともに丁寧に説明した上で、理解を促す指導が求められる。 (7)問題文の条件を見落とし「コイルの巻き数を多くする」という誤答が多く見られた。問題文の問いに対して適切に解答する表現力が求められる。 | |
| | (2) 消費電力 | 48.0 | ○ | | | |
| | (3) 電力量 | 41.6 | ○ | | | |
| | (4) 磁界変化と力の向き | 73.1 | ○ | | | |
| | (5) コイルが受ける力の向き | 52.5 | | ○ | | |
| | (6) 整流子の役割 | 2点 | 17.2 | ○ | | |
| | | 1点 | 0.8 | | | |
| | | 無記入 | 22.4 | | | |
| (7) コイルの回転速度 | 2点 | 52.6 | ○ | | | |
| | 1点 | 1.8 | | | | |
| | 無記入 | 10.9 | | | | |
| 【5】 | (1) 天気図記号 | 32.0 | ○ | | (1)天気図記号の正しい表記方法が身につけていない誤答が多く見られた。 (2)温暖前線と寒冷前線の特徴を、原理とともに正しく理解する学習活動が求められる。 (4)資料より情報を整理し、思考、判断する力が求められる。 (5)「季節風」という誤答が多く見られた。 (6)①低気圧中心付近の空気の流れが知識と定着していない状況が見られた。理解を伴った知識の定着が求められる。 (6)②「台風」について問題文と既習事項を関連付けて、論理的に思考させた上で表現させる問題であった。生徒自身に表現させ、その内容を評価する学習場面の設定が求められる。 | |
| | (2) 温暖前線の特徴 | 53.6 | ○ | | | |
| | (3) 寒冷前線通過時刻 | 71.4 | | ○ | | |
| | (4) 露点 | 48.6 | | ○ | | |
| | (5) 偏西風 | 64.7 | ○ | | | |
| | (6) ① 台風の地表付近の風の吹き方 | 2点 | 8.9 | ○ | | |
| | | 1点 | 51.1 | | | |
| 無記入 | | 14.6 | | | | |
| | ② 台風の勢力の衰え | | | | | |

【評価の観点】 A: 知識及び技能 B: 思考力、判断力、表現力

2. 知識及び技能について

解答結果とその分析

- ・計算式の定義に関する知識は正答率が低く、定着できていない状況が見受けられた。【4】(1)～(3)の電流値を利用する計算では、電流の単位がAでなく表示されたmAのままで計算した誤答が多かった。計算式の定義に関する知識については定義を正確に理解すると共に反復して身に付ける学習活動が必要である。
- ・語句の知識を問う問題では正答率は高かったが、【1】(1)「示相化石」や【5】(5)「季節風」という誤答が見られた。図などを活用しながら丁寧に理解すると共に内容を定着させる学習活動が必要である。
- ・【1】(3)のグラフ作成の技能を問う問題の正答率は半分程度であった。自ら情報を整理して、結果をグラフにする技能については、正しい作成方法も含めて授業における教師の適切な指導の下での学習活動が求められる。

3. 思考力、判断力、表現力について

(1) 設問の意図(ねらい)

- ・【2】(6)「中和反応」におけるイオンの数の変化について正しく理解した上で、変化の過程を思考する力を見るようにした。
- ・【4】(7)身のまわり生物の観察結果を比較し考察することで、共通点や相違点を見出し、生物の分類の観点を判断する力を見るようにした。
- ・【5】(6)②日常生活に関連する台風に関する情報を題材に、台風の勢力の衰えを海面の水温と関連付けて考察させ、表現する力を見るようにした。

(2) 解答結果とその分析

- ・【2】(6)の正答率は79.4%であった。正しい理解をもとに変化の過程とイメージが関連付けられている。引き続き、モデル図やアニメーション動画等を活用し、丁寧に理解する学習活動が求められる。
- ・【4】(7)の正答率は88.2%であった。結果を比較、考察し判断できている状況であった。引き続き、生徒自身が観察から得た結果を活用し、比較し関連付けるような学習活動が求められる。
- ・【5】(6)②の正答率は8.9%であった。与えられた情報と既習事項を関連付けて思考、判断した上で表現することが求められる。そのため単元ごとに観察や実験を通して思考、表現する機会を十分に確保し、その内容を評価し生徒に丁寧にフィードバックする指導が求められる。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 探究の学習過程を踏まえた**問題解決的な学習活動**を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの充実を図り、**日常生活や社会との関連を意識させ、生徒が理科を学ぶことの意義や有用性を実感できる授業**が求められる。
- ② 実験結果をグラフ化する技能において、軸目盛の値の適切な設定やプロットの仕方など、**グラフの正しい記入方法を丁寧に指導する**必要がある。
- ③ 基礎的な計算力の育成に加え、**理科の見方・考え方をういて適切に計算式を立式するなどの思考力**を育成する必要がある。
- ④ 視覚的に捉えづらい分野(原子・分子、地球と宇宙など)は、理科の見方である実体的な視点や時間的空間的な視点を押さえた上で、**模型やICT(動画視聴含む)を活用してイメージしやすいように工夫する**必要がある。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 中学校教科書の内容や教科の指導について理解し、高校入試の分析結果を参考に、入学時における生徒の状況・実態に即した**授業のねらいや身に付けたい力を明確にすることが必要**である。
- ② 理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことを通して、生徒に探究の過程を意識させ、**科学的に探究するための資質・能力を育成することが必要**である。
- ③ 教員とのやり取り、生徒同士の対話、先哲の考えを手がかりにした活動等によって、意見を交換したり科学的な根拠に基づいて議論したりして、**自分の考えをより妥当なものにする学習活動**を取り入れることが必要である。
- ④ 科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることに触れ、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させるとともに理科への関心を高め、**生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成することが大切**である。

英 語

1. 問題の項目と正答率

| 大問 | 小問 | 項 目 | 正答率 (%) | 評価の観点 | | 特記事項 (誤答例等) | | |
|-----|------|------------------------|---------------------|--------------|---|---|---|---|
| | | | | A | B | | | |
| 【1】 | A | 1番 | 85.6 | ○ | | 対話の内容を正確に聞き取る力が必要である。2番では場所を表す表現を理解できていた。 | | |
| | | 2番 | 96.6 | ○ | | | | |
| | B | 1番 | Whatで始まる疑問文に対する答え | 80.5 | ○ | | 何をたずねられているかを理解し、必要な情報を聞き取る力が必要である。3番では聞いた内容の要旨と一致するものを選ぶ問題の正答率が高かった。 | |
| | | 2番 | Whatで始まる疑問文に対する答え | 71.6 | ○ | | | |
| | | 3番 | Whichで始まる疑問文に対する答え | 80.5 | | ○ | | |
| | C | 1番 | 対話の内容に対する聞き取り | 26.3 | ○ | | 対話の内容を理解し、必要な情報を聞き取る力が必要である。聞き取る英文と選択肢の英文を一致させることが同じ意味で使われていると理解できずに、正答率が低かった。 | |
| | | 2番 | 対話の内容に対する聞き取り | 64.7 | ○ | | | |
| | | 3番 | 対話の要点に対する聞き取り | 54.1 | | ○ | | |
| | 【2】 | A | (1) | 英文の読み取りと語の記述 | 50.9 | ○ | | 対話の内容を正確に読み取る力が必要である。基本的な語彙については、異なる場面で繰り返し活用することを通し習得することが求められる。Learningをto learnにかえることが出来ていなかった。基本的な知識及び技能の定着ができていない。 |
| (2) | | | 英文の読み取りと語の選択 (文法) | 75.9 | ○ | | | |
| (3) | | | 下線部が示す内容 | 41.1 | ○ | | | |
| (4) | | | 英文の読み取りと語句の記述 | 26.1 | ○ | | | |
| B | | (1) | ポスターと英文の読み取り | 52.8 | | ○ | ポスターの内容を踏まえつつ、話し手の意図を正確に理解する力が求められる。日頃から、コミュニケーションを行う目的、場面、状況を意識した学習活動を計画することが求められる。 | |
| | | (2) | ポスターと英文の読み取り | 44.7 | | ○ | | |
| 【3】 | A | ① | 場面に応じた英文の記述 (現在進行形) | 2点 | 33.7 | ○ | 目的や意図に応じた適切な表現を使うことが求められる。I reading a bookという誤答が見られた。 | |
| | | | 無記入 | 15.7 | | | | |
| | | ② | 場面に応じた英文の記述 (依頼の場面) | 3点 | 15.8 | ○ | | 言語の働きを意識して、会話の場面に応じた適切な表現を使うことが求められる。lend, borrowの使い方、依頼表現ができていない答案が散見された。 |
| | | | | 2点 | 14.1 | | | |
| | B | ここ3年間の自分にとって有益な経験とその理由 | 1点 | 14.9 | ○ | 話題となっている英文を読み、それを基に必要な情報について、自分の体験とその理由を書く力が求められる。experienceの意味を理解しておらず、「役に立つもの」の紹介をしている答案が見られた。 | | |
| | | | 無記入 | 28.2 | | | | |
| | | | 5点 | 4.0 | | | | |
| | | | 4点 | 1.7 | | | | |
| | | | 3点 | 22.2 | | | | |
| | | | 2点 | 0.5 | | | | |
| 1点 | 15.1 | | | | | | | |
| 無記入 | 34.1 | | | | | | | |
| 【4】 | (1) | ① | 英文の要点理解 | 59.7 | ○ | 一語一語の意味や一文一文の解釈などの特定部分だけでなく、書き手が伝えようとしている要点を捉えたり、論理の展開を押さえて読む力が求められる。日頃から様々なタイプやジャンルの英文に触れる機会を設定し、読んだ内容について話して伝え合う活動を日常的に取り入れる指導が必要である。 | | |
| | | ② | 英文の要点理解 | 41.8 | ○ | | | |
| | | ③ | 英文の要点理解 | 53.9 | ○ | | | |
| | (2) | 英文の要点理解 | 37.4 | ○ | | | | |
| | (3) | ⑤ | 英文の要点理解 (スライド) | 31.2 | ○ | | | |
| | | ⑥ | 英文の要点理解 (スライド) | 53.8 | ○ | | | |
| | | ⑦ | 英文の要点理解 (スライド) | 48.0 | ○ | | | |
| | (4) | 動物の生息地をよりよくするためにすべきこと | 5点 | 6.6 | ○ | | 読んで得た情報を基に、賛否や感想、意見やその理由を書くなど学習活動の工夫が求められる。コミュニケーションの目的や場面、状況に応じ、自分の考えを形成し表現するなどの具体的な課題を設定する工夫が求められる。日常的話題だけでなく、社会的な話題に触れておくことが重要である。 | |
| | 4点 | 4.6 | | | | | | |
| | 3点 | 18.7 | | | | | | |
| 無記入 | 45.8 | | | | | | | |
| 【5】 | (1) | 下線部が示す内容 | 62.4 | ○ | 事実を問うだけでなく、行間などを問うような発問の工夫が求められる。本文中から抜き出しただけの解答も見られた。(3)は代名詞の適切な使用ができていない解答が見られた。 | | | |
| | (2) | 英文の内容理解 (空所補充) | 49.1 | ○ | | | | |
| | (3) | 英文の内容理解 (英問英答) | 22.5 | ○ | | | | |
| | (4) | 下線部が示す内容 | 59.3 | ○ | 一語一語や一文一文など特定部分だけでなく、概要や主旨を正確に読み取る力が求められる。また、読んだ内容に対して、話して伝え合う活動など統合的な学習活動を行うことが効果的である。 | | | |
| | (5) | 英文の要点理解 (空所補充) | 3.9 | ○ | | | | |
| | (6) | 英文の要点理解 (空所補充) | 35.8 | ○ | | | | |

【評価の観点】 A: 知識及び技能 B: 思考力、判断力、表現力

2. 知識及び技能について

解答結果とその分析

- ・「聞くこと」「読むこと」について、聞いたり読んだりした内容を捉えることができる力や、メモやスライドを活用して話の要点を捉える力は身につけているが、聞いたり読んだりした内容について、話して伝え合う統合的な言語活動を設定することが求められる。
- ・文構造や文法事項など、知識の理解にとどまらず、実際のコミュニケーションの場면을意識した言語活動で繰り返し活用出来るような指導上の工夫が必要である。また、話されたり書かれたりする内容を捉える言語活動を計画的に設定することも求められる。
- ・「書くこと」について、生徒が学習した語彙や文構造を活用して表現できるような課題設定が求められる。自分の体験などを踏まえて理由を加えて具体的に説明する、話題となっている内容について自分の意見や考えを簡単な語句や文を用いて論理的に書く、などの力が必要である。
- ・実際のコミュニケーションの場면을意識し、相手に応じて、どのような表現が適切かを考えて用いることができるようになるためには、日常の授業において、表現しようとすることを生徒が自ら考え、ふさわしい表現を選択する機会を設定し、間違いながら習得していくことができるよう、計画的に指導することが不可欠である。また、言いたいことを別の表現で言い換えて表現する練習を行うなどの指導の工夫も求められる。

3. 思考力、判断力、表現力について

(1) 設問の意図(ねらい)

【1】ではインタビューの内容を聞いて情報をまとめる、【2】Bではポスターと英文の内容を把握し必要な情報を読み取る、【4】【5】では書き手が伝える話の要点や概要を捉える力が求められた。【3】B、【4】(5)では「ここ3年間における自分にとって有益な経験とその理由」「動物の生息地をよりよくするためにすべきこと」について、読んだ内容に対しての自分の意見を論理的にまとめる力が求められた。

(2) 解答結果とその分析

「聞くこと」「読むこと」においては、具体的な課題等を設定し、必要な情報または概要や要点などを聞いたり読んだりすることが求められる。「読むこと」においては、まとまりのある文章を最初から最後まで通して読む機会を設定し、意味のまとまりごとに英文を捉えさせることが必要である。さらに、聞いたり読んだりした内容に対して、自分の考えを伝え合うなどの統合的な言語活動を工夫することが必要である。

4. 指導の在り方について

(1) 中学校における今後の指導の在り方

中学校では、付けたい力を明確にし、聞いたり読んだりした内容をまとめたり、それに対する自分の意見や考えを表現して伝え合うコミュニケーションを図る資質・能力を養うことが求められる。そのためには以下の点に留意した指導が求められる。

- ① **単元を通して**、生徒に身につけさせたい力や具体的な生徒の姿を設定した上で CAN-DO リストに基づき、単元構想をする。身にけさせたい力を、**CAN-DO リスト**に基づいて明確にする。
- ② 目的・場面・状況を設定した上で、生徒が英語を使う機会を増やし、生徒の英語による**言語活動を中心に**授業を展開する。
- ③ 複数の技能を結び付けた言語活動を通して **4技能5領域を総合的に育成する指導**を行う。聞いたり読んだりして得た事実や情報について、自分の体験や考え、賛否などとその理由について、まとまりのある文章で書いたり、ペアやグループで伝え合ったり、発表したりする活動をさせる。

(2) 高等学校における今後の指導の在り方

高校の授業では、高等学校学習指導要領の趣旨と中学校での学習とのつながりを理解した上で、以下の点に留意した指導が求められる。

- ① 年間、学期及び単元を見通し、CAN-DO リストに基づいて「生徒が英語を使って何ができるようになるか」を設定する。
- ② 授業において、コミュニケーションを行う目的、場面、状況に応じた言語活動や、複数技能を結び付けた言語活動を授業に取り入れること、パフォーマンステスト等計画的に観点別学習評価を実施することが求められる。
- ③ 中学校との学びのつながりを意識するとともに、高等学校においても、コミュニケーションを行う上での支援や語彙・表現など段階に応じた配慮や指導により、コミュニケーションの目標を達成することが求められる。